

中国軍、AI活用進む

防衛研分析 人材育成は途上

防衛省防衛研究所は26日、中国の最近の軍事戦略を調査した報告書「中国安全保障レポート2022」を公表した。人工知能（AI）や無人機を活用し、軍の「智能化」を急ぐ中国の現状を分析した。人材育成が追いついていない点などの課題を指摘した。

中国人民解放軍で「智能化」に向けた新たな作戦が新たな構想を検討し

戦構想の研究が進んでいると記述した。「智能化」は情報化の次の段階と位置づけられ、AIやビッグデータ、クラウドコンピューティングなど先端技術の軍事分野への応用を指す。

習近平（シー・ジンピン）国家主席が「軍事智能の発展を加速する」と号令をかけたのに伴い、

機が一緒に軍を指揮統制する戦争に対応するため、組織改革を進めていると記載した。人と機械が一緒に軍を指揮統制する戦争に対応するため、組織改革を進めていると記載した。

放棄する必要も提起されているという。

検討が進む組織改革として宇宙軍、ネットワーク軍、電子軍などの創設を挙げた。陸海空の従来領域と宇宙など新領域を一体化し、統合作戦を立てる新たな部隊をつくり、伝統的な軍隊構造を

高度な科学技術を扱う人材の育成を課題に挙げた。国家と民間の間で人材の育成を課題に挙げた。国家と民間の間で人材の育成を課題に挙げた。

高度な科学技術を扱う人材の育成を課題に挙げた。国家と民間の間で人材の育成を課題に挙げた。

中国安全保障レポートのポイント

中国軍のなかで「智能化条件下の統合作戦」の研究が進展
AIや無人機など新技術の活用を視野に軍改革を検討
陸海空など各軍種を一体で指揮する統合作戦指揮体制を構築
軍種間の情報共有体制やシステムの相互接続を強化
高度人材の獲得・育成などが課題。克服に時間
組織改革や人材育成に注目し中国軍の能力を多角的に見積もることが重要

について、報告書を作成した杉浦康之主任研究官は「台湾侵攻作戦は難度が高い。合理的に考えるとまだ可能性は低い」と話す。

一方で「台湾の能力や米軍の関与を過小評価し、やれると間違った分析をするリスクはある」とみる。

「中国安全保障レポート」は中国の軍事動向について2011年以降、毎年発行している。今回が12冊目となる。防衛省のシンクタンクである防衛研究所の中国研究者がテーマを決めて分析してきた。